SDGs×グローカル・キャリア

SDGs× 組織連携を中核に探究活動を展開しグローカルなキャリア形成に役立てる

※本指導案はSDGsを中核に組織連携を通して学校や地域を巻き込みながら各学年で長期的に探究活動を展開することをねらったものです。

アプローチ

1 知る：資源 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と出会う導入段階です。

資源（ひと・もの）を活かした様々な取組を知り、理解を深めると共に、自らのあり方や生き方を探ります。ここでは、地域学習を例に紹介します。

- “持続可能な社会作り”に大切なことは？
- 探究テーマを深める質問とは？
- 実際にどんな取組がある？
- これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？

2 広げる：アイデア × 自分

SDGsに取り組む外部組織の助けを借りてアイデアを発展させる段階です。

様々な課題を知り、多様な視点で課題を捉え直します。ここではローカルからグローバルに視座を高めます。

- 世界の課題って何だろう？
- 世界の課題を解決するには？
- どんなアクションが起こせるだろう？
- 地域のリソースはどのように使えるだろう？

3 変える： 変容 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と連携しながら課題解決に挑む段階です。

探究活動の学びやつながりを後輩に継承し、探究手法を進路探究に繋げます。ここでは成果と課題を振り返り、キャリア観を俯瞰します。

- 何をどう持続させる？
- どの探究手法を使う？
- 良いプロジェクトとは？
- 自分の在り方生き方とは？

指導のポイント

進路探究の成果等も最下級生に発表すると、憧れのモデルを身近に見つけ、これから自分に起こる学校生活や行事等の目標・目的を明確化できます。

最上級生は内容を噛み砕いて発表するスキルを磨き、物事の本質に迫る機会を得ることができます。発表会の企画運営も生徒に任せるとよいでしょう。

４班　作成者の言葉

松井　市子　　新潟県立津南中等教育学校

探究活動は主体的な学びです。人との出会いがそれに拍車をかけてくれます。教室から飛び出して色んな人の色んな考え方や生き方に触れ、日々の学びに還元してもらいたい、という思いで本指導案を作成しました。

石井　誠　　渋谷区立松濤中学校

未来の学校づくりというアイデアで指導案を作成しました。生徒が自ら目標をたて、それに向かって学んだ知識・技能を生かし、培ってきた思考力・判断力・表現力を活用できる環境づくりが教員の役割だと考えています。

増田　有貴　　村上市立荒川中学校

中学１年、３年、高校２年担当の私たちの実践を統合させた指導案です。グローバルとローカルを往還しながら生徒が社会に出て学ぶ探究活動を目指して作成しました。教科でも使える８つのエッセンスもご活用ください。

指導案に込めた思い

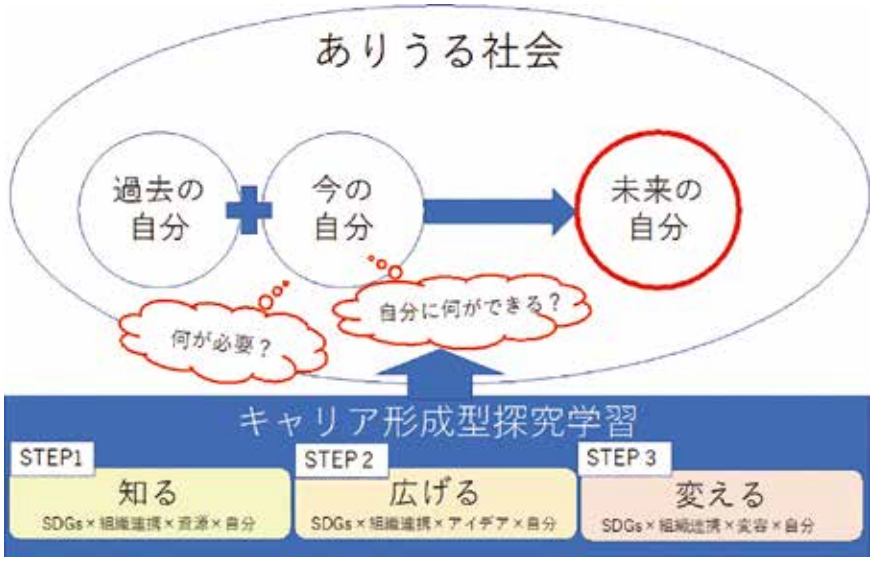
本指導案は、外部組織との連携を中核に据えた探究活動を示すことをねらいとしています。その活動の中で生徒が主体的にキャリア形成を行い、職業観を形成させることのできるプログラムともなっています。また、グローカルなキャリア形成に役立てるよう中学校から高校まで長いスパンで実践できるものとなっています。

世界的な感染症の拡大によりこれまでの前提が崩れたり、教師の役割が変わったと感じたりしている方も多いと思います。これまで当たり前だった学習活動が制限される中ですが、ICT ツールや地域・JICA のリソースを活用すれば、今までできなかった「外」との連携に挑戦できる機会でもあります。教師が教育の場から「社会」を見せてあげることで、生徒は学校外の刺激や示唆に富んだ人々との出会いにより学校での学びを加速させ、自立した主体的な学習を進めることができます。それは、外部の人と繋がることで、生徒の探究心や主体性、最後までやり遂げようとする責任感が高まるからです。そのような場づくり（授業デザイン）をすること、そして生徒の変容過程を様々な視点や角度から捉えていけることは教師としてとても嬉しく有意義なことだと我々は感じています。探究活動を通して、生徒も教師も自らの生き方やあり方を模索し、思考や態度が主体的に変容していくことを願って指導案をまとめました。

ジブンゴト化とは？

「ジブンゴト化」とは「今」や「過去」から「未来」を描ける力であり、そこに「自分がいる」ことをイメージできることだと考えます。それは「ありたい社会」「ありたい自分」を願うだけでなく「これからありうる社会」を想定し「自分はどうあるべきか」考え、行動する意識・態度です。それは「どこか遠くの誰かが困っている」「誰かが何とかしてくれるだろう」という意識ではなく「何が必要か」「自分に何ができるか」を考えること。そのためには、想像力・共感力をもち、学習や体験を通して繋がった国、地域、人々に思いを馳せ、未来を見据えて自分自身の行動に活かそうとすることが大切だと考えます。

「自分の強み×弱み」と「外の強み×弱み」が教室外で出会い、色んな人が色んな経験や考えを持つことを知ること、様々な学びや経験を自分自身に生かそうとすること、これを「キャリア形成型」探究活動として捉えます。「どこか遠くの誰かや何か」を「ジブンゴト」として捉えられるようになり、大きく広がりのある職業観につなげて欲しいと思います。



課題と今後の展望

【第１段階】汎用性アップに向けて

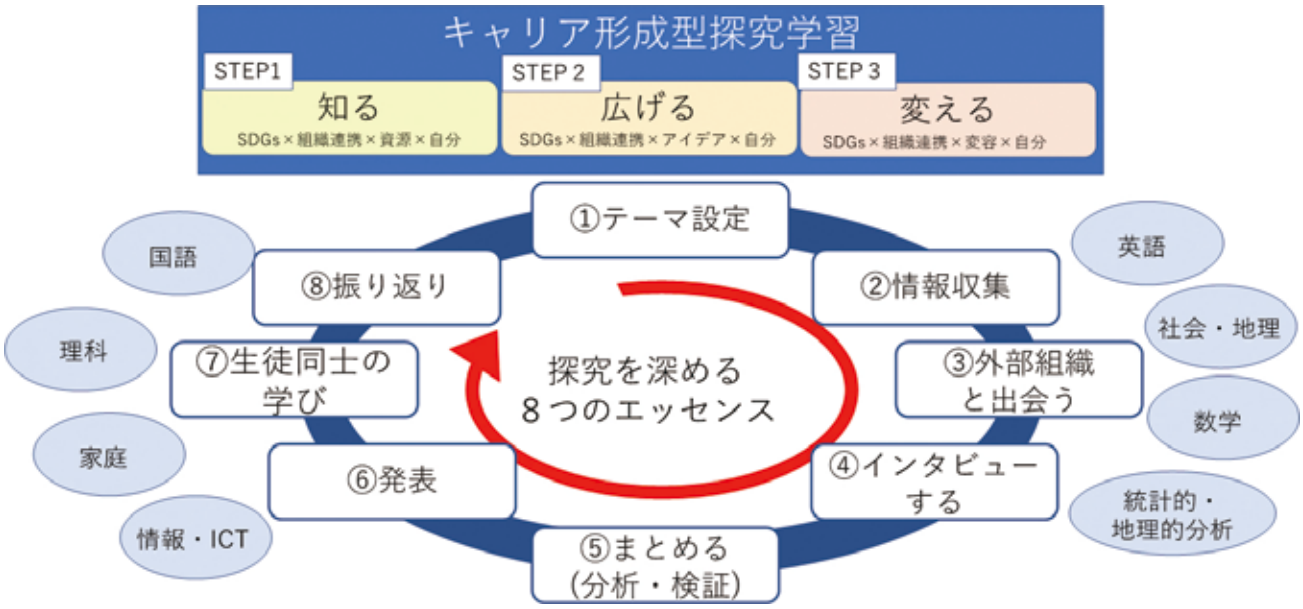
本指導案は Step1（導入）から Step3（発展）へと段階を経る毎に「外」との連携度合いや生徒の主体性がより高まります。指導案の作成は異なる校種の教員が自分の実践を振り返りながら議論して作成しました。各段階でエッセンスとなる活動を最小限に絞り、共通する視点を８つにまとめました。生徒や地域が異なっても本指導案の汎用性が保証されることを期待しますが、実践してみて分かることも多々あると思います。より多くの学校で外との連携が進み、そのノウハウが蓄積されてより良い実践につながっていって欲しいと願う一方で、実践の共有がより進むよう JICA のネットワークに１人でも多くの先生方が入られることも願います。我々も JICA の教師海外研修を通してネットワークがより広がり深まり、授業実践につながりました。より多くの実践から共通エッセンスを抜き出すことで、より汎用性の高い指導案ができあがっていくと思います。

【第２段階】教科との結びつけ

本指導案は英語教員が作成しました。段階を経る毎に英語を使用する場面が垣間見えると思います。学習教科の１つである「英語」をツールとして探究活動を展開すること、そしてそこから「外」と繋いでみることが本指導案の特徴です。英語学習は SDGs を地球規模で考えるには最適の教科学習です。また、統計的・地理的な分析も経験するような指導案も入れました。「数学」や「社会・地理」など他教科との連携を強めることで、本指導案がさらに展開・発展すると期待します。

【第３段階】総合的な学習・探究の発展型・

我々の周りでは色々な事象が起こっていますが、教室の学びとつなげられる生徒は多くありません。総合的な学習・探究の時間はその接着剤として機能しています。本指導案でも「外」とつながる時間に総合的な学習・探究の時間を位置づけましたが、いったん「外」とつながり、そのつながりの意義を見いだせれば、人が入れ替わっても学校が中核となってそのつながりを発展できます。そのつながりから「ありうる社会」を「ありたい社会」に、そして「ありたい自分」につなげていけると考えます。「キャリア形成型」探究活動が近い将来、どの教科でも展開されていること願います。



学びの構成（キャリア＆組織連携＆ SDGs）

最上位目標

SDGs ×組織連携を中核に探究活動を展開しグローカルなキャリア形成に役立てる

学びの流れ

大人ってすごい！

STEP1（知る）：SDGs × 組織連携 × 資源 × 自分

SDGs に取り組む外部組織と出会う導入段階です。資源（ひと・もの）を活かした様々な取組を知り、理解を深めると共に、自らのあり方や生き方を探ります。ここでは、地域学習を例に紹介します。

導入１～２コマ	“ 持続可能な社会作り ” に大切なことは？
展開①３コマ	探究テーマを深める質問とは？
展開②５コマ	実際にどんな取組がある？
まとめ１コマ	これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？

STEP2（広げる）：SDGs × 組織連携 × アイデア × 自分

SDGs に取り組む外部組織の助けを借りてアイデアを発展させる段階です。様々な課題を知り、多様な視点で課題を捉え直します。ここではローカルからグローバルに視座を高めます。

自分もやってみたい！

導入１～２コマ	世界の課題って何だろう？
展開①３コマ	世界の課題を解決するには？
展開②５コマ	どんなアクションが起こせるだろう？
まとめ１コマ	地域のリソースはどのように使えるだろう？

STEP3（変える）：SDGs × 組織連携 × 変容 × 自分

SDGs に取り組む外部組織と連携しながら課題解決に挑む段階です。探究活動の学びやつながりを後輩に継承し、探究手法を進路探究に繋げます。ここでは成果と課題を振り返り、キャリア観を俯瞰します。

導入１～２コマ	何をどう持続させる？
展開①４コマ	どの探究手法を使う？
展開②２コマ	良いプロジェクトとは？
まとめ	自分の在り方生き方とは？

変化は…∞

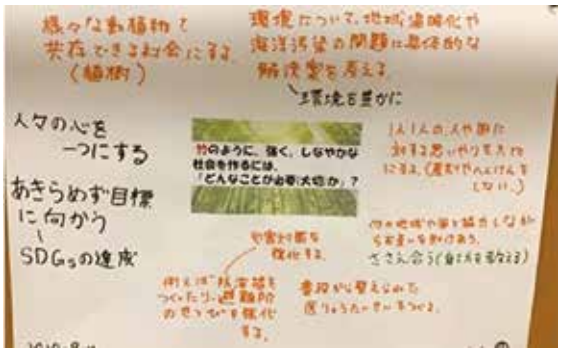
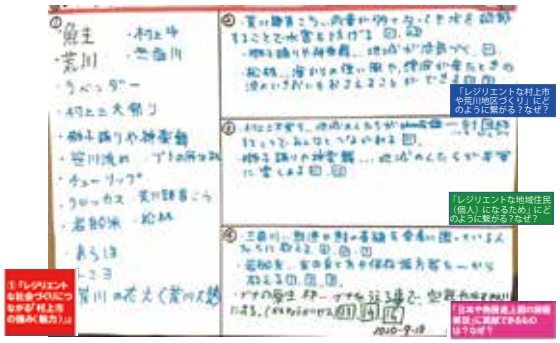
本指導案は SDGs を中核に組織連携を通して学校や地域を巻き込みながら各学年で長期的に探究活動を展開することをねらったものです。キャリアパスポートを通して生徒の変容を見取ります。Step1 から Step3 までの指導案詳細は別刷り「指導案後半：８つのポイント（テーマ設定、情報収集、連携する外部組織の選択、インタビュー方法、まとめの方法、発表の場、生徒同士の学び、振り返り）」で実践授業に基づき記述しています。授業者が生徒の実態や地域の特色等に応じて適宜選択し授業デザインしていただけたらと思います。

【STEP1】（知る）SDGs ×組織連携×資源×自分

実施の目的：選択したテーマをもとに「持続可能な社会づくり」を追究する学習や、自分の考えをまとめ他者に働きかける発表を経験させることで、今後の探究学習の土台づくりとする。

生徒の目標：① SDGs に取り組む企業、事業所の様々な取組を学ぶことで、その特性や資源を深く知る。
② SDGs のレンズを活用し「持続可能な社会づくりに大切なこと」について自身の考えをもつ。
③他者に気づきや行動の変容を呼びかける発信力を身につける。

事前の準備物：ワークシート

目安時間	内容
導入 1～2コマ	**“ 持続可能な社会づくり ” に大切なことは・・・？** イメージをもたせるための一例 **【知る】資源（もの・技術）を活かした国際協力の事例を知る。** （例）JICA-Net Library（https://www.youtube.com/c/JICANetLibrary/playlists） （例）JICA 広報誌 mundi（https://www.jica.go.jp/publication/mundi/index.html） （例）JAPAN SDGs Action Platform（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html） JICA-Net　mundi　SDGsAction **私たちの地域にあるものが強みになる！** **【問い】「持続可能な社会づくり」に大切なことは何だろう？** ・班で話し合いながら、マインドマップを用いて書き出す。 **【ワーク】関連する資源と SDGs の番号を別の色のペンで書き足す。**  【例】 「竹のように強く、しなやかな（レジリエントな）社会づくり」をテーマにしたマインドマップの例です。ここでは、「JICA 草の根技術協力事業　丸森ザンビアプロジェクト」を紹介しました。２時間目に、地域資源がそれぞれレジリエントな「人」「地域」「国」にどのようにつながるか考えました。  「○○は□□に活かせそう」という期待でも良いです

目安時間	内容
展開① 3コマ	

探究学習テーマを深める問いとは？

探究学習のスタート！
ワクワクするテーマを！

【準備①】探究テーマとインタビューする事業所の決定

・班ごとに、探究したいテーマを考える。
・探究テーマに合う取組をしている身近な事業所を探し、インタビューを依頼する。

＜補足１＞

SDGs Action　にいがたSDGs

インタビュー方法は、オンライン・オフラインどちらでも可能です。

（例）Japan SDGs Action Platform（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/org1.html）
（例）SDGs にいがた（https://sdgs-niigata.net）

【例】

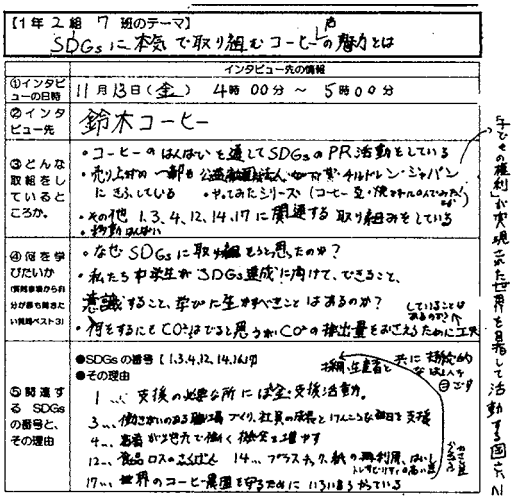
	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート（敬称略）
1	地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!	新潟スワンエナジー（株）
2	日本初！米を原料としたバイオマスプラスチックとは？	（株）バイオマスレジン南魚沼
3	外国からの持続可能な原料調達と製紙業	北越コーポレーション（株）
4	村上市で南国フルーツがとれる理由は？ ～地域資源を活かした循環型農業～	（株）開成
5	人と街と地球にやさしい家づくりとは？	（株）ナレッジライフ
6	テクノロジー×大学× SDGs で世界の課題解決へ！	長岡技術科学大学

【準備②】調べ学習とインタビュー先への質問づくり

・事業内容、理念、SDGs との関連などを調べ、まとめる
・「持続可能な社会づくり」を深めるための質問を 10 個考える

インタビューの１ヶ月前には担当者に送りましょう。

【調べ学習まとめ例】

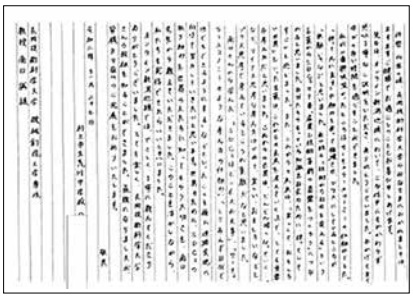

【1年2組 7班のテーマ】
SDGsに本気で取り組むコーヒー店の魅力とは

	インタビュー先の情報
①インタビューの日時	11月13日（金） 4時00分 ～ 5時00分
②インタビュー先	鈴木コーヒー
③どんな取組をしているところか。	・コーヒーのはんばいを通してSDGsのPR活動をしている ・売り上げの一部を公益財団法人ユニセフ、オルビレン・ジャパンにさふしている　・やってみたシリーズ（コーヒー豆・使ったかすのリサイクル） ・その他 1.3.4.12.14.17に関連する取り組みをしている ・移動はんばい
④何を学びたいか（質問事項から自分が学ぶ関連したい質問ベスト3）	・なぜSDGsに取り組もうと思ったのか？ ・私たち中学生がSDGs達成に向けて、できることを意識すること、学びたい生かすべきことはあるのか？ ・何をするにもCO2はでると思うがCO2の排出量をみこえるために工夫
⑤関連するSDGsの番号と、その理由	●SDGsの番号 [1.3.4.12.14.17] ●その理由 1…支援の必要な所に資金・支援活動。 3…働きがいのある職場づくり、社員の成長とけんこうな毎日を支援 4…高等学校で働く機会を増やす 12…食品ロスのふくはぶん　14…プラスチック、紙の再利用、ハンドレッドリサイクルの高い基 17…世界のコーヒー農園を守るために行っているから

子どもの権利が実現された世界を目指して活動する国です

【質問例】

・現在使用している肥料に SDGs は関係していますか。関係している場合は、どのゴールに関係していますか。
・SDGs を自分事にするために、新聞を読む時のポイントはありますか。
・食品ロス対策として、何か工夫して取り組んでいることはありますか。
・御社のバイオマスプラスチックは、新潟県内で、どのような製品に、どれくらい使われているのでしょうか。また、県外での使用はありますか。
・バイオマスプラスチックの原料に米を選んだ理由は何ですか。
・普段物を購入する際、商品の選択や消費において、私たちが気を付けるべきことがあれば教えてください。

目安時間	内容
展開① ３コマ	**【準備③】事前学習発表会** ・学年もしくは学級で、テーマの異なるメンバーで班を編成し、インタビューの目的や事前学習で調べた内容、学びたいこと等を発表する。 ・聞き手は付箋に、興味深かったことや自分のテーマとの関連、追加して聞いてほしいことなどを書き、発表者に渡す。 多様なテーマで探究する仲間からのコメントには多くの気づきがあるはず！ 元の班で付箋を持ち寄り、インタビュー内容を深めましょう。
展開② １コマ ＋ ２コマ ＋ ２コマ	実際にどんな取組がある？ 外部組織と出会う！ **【知る】県内の事業者にインタビュー** ・班ごとに、事業者に探究テーマに関わるインタビューを行う。世界や地域の課題を解決するための取組や考え方を学ぶことで、「持続可能な社会づくりに大切なこと」を考える。 ＜補足２＞ （例） 探究学習会の流れ（60 分） ①探究学習の趣旨説明　②生徒自己紹介 ③担当の方より、簡単な自己紹介と事業（活動）説明 ④インタビュー　⑤フリートークタイム ⑥心に残った言葉と感想発表 ★付箋に「心に残った言葉」を記入、カメラに映しながら感想を発表する。 ⑦お礼の言葉　⑧写真撮影 **今だけでなく、何十年先の未来を考えているんだなぁ。** **【振り返る】学習のまとめ** ・学びをまとめ、「持続可能な社会づくりに大切なこと」について自分の考えをもつ。 （まとめ学習の例 ①振り返りシート、②礼状、③レポート）＜補足３＞ 

目安時間	内容
	【発表】プレゼン大会 ・他者に気づきを与えたり、行動の変容を呼びかけたりするためのプレゼン大会を学年合同で行う。お互いの発表を聞き、相互評価を行う。**＜補足４＞** ・４分プレゼンの型の例 ①つかみ（自分の問題意識、テーマを選んだ動機） ②探究学習の学び ③コアメッセージ（持続可能な社会づくりや SDGs の達成を目指して取り組みたいこと、聞き手への呼びかけ） （例）生徒 90 名のプレゼン班編成 テーマの異なる生徒９名編成＜発表時間４分＋評価記入時間１分＞ →メンバーを変えて、２ラウンド行う。

レポートを A2 に拡大し、ポスタープレゼンとします。

自分はどうありたいか？どう生きたいか？という問いがキャリア形成につながります！

各発表会場の担当者への説明例。会場の雰囲気作りも大切です。

担当の先生方、よろしくお願いいたします！

2021 年 1 月 21 日　**オンライン新潟巡検×SDGs プレゼン大会**

☆昼休み前に、レポート拡大版、評価用紙を配布。名前を記入。

＜プレゼン大会の流れ＞

①先生による説明（流れの確認、発表者は…大きい声で頑張れ！、聞く人たちに贈るプレゼンはプレゼント、聞く人たちは…温かい気持ちで聞く。評価用紙は丁寧に。記述部分は内容について伝わるようしっかり書こう。）

②（4分プレゼン＋3分評価用紙記入）×6 名を前半・後半の 2 セット。

③プレゼン後、発表者に評価用紙を渡す。

④全員が発表したのち、教師は労いの言葉を伝える。講評。

※教師は発表者に発表時間を伝える。

※発表会は、ホワイトボードにポスターを貼り付けて発表する。

※プレゼン大会後、発表者は原稿に評価用紙をはさみ、提出する。

1 月 21 日（木）スケジュール
- **昼休み…会場セッティング**
  昼休み中に最終練習！
- 13:45～13:50 説明
- 13:50～14:35 前半発表
- 14:35～14:45 休憩
- 14:45～15:35 後半発表

プレゼンのチェックポイント例。「何のためのプレゼンか？」生徒自身が考えられると良いですね。

☆チェックポイント☆

（1）プレゼン内容について

① □ 最初のつかみ（問いかけや動機）は、聞き手を引き付ける内容ですか。
② □「新潟巡検での学び」を具体的に説明していますか。（テーマ、インタビュー先について、訪問先で特に心に響いた言葉、など）
③ □「SDGs との関連」を理由も含めて分かりやすく説明していますか。
④ □「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を自分の考えを、理由と共に説明していますか。
⑤ □ 最後のコアメッセージは、聞き手が問題意識をもったり、行動を起こそうと思うような内容ですか。

（2）プレゼン態度について

① □ 話すスピード（聞き手が理解できるスピードで）
② □ 間の取り方（強調する言葉の前は、ためて話す。）
③ □ 声の大きさ（自分にしか聞こえない声では伝わらない）
④ □ 抑揚（×棒読み　○強調する　○感情を込める　○聞き手に話しかけるように）
⑤ □ アイコンタクト（×原稿をただ読むだけ　○聞き手一人ひとり見ながら）
⑥ □ ジェスチャーやモノを使う（×棒立ち）

（3）プレゼン時間について

□ ３分 50 秒～4 分 10 秒だった。

目安時間	内容
まとめ １コマ	これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？ **【まとめ】１年間の学びを振り返る（キャリアパスポートの活用）** ・学習・プレゼン大会を終えて考えたこと、学んだこと、自身の変化、感想。 ・１年間の学びを振り返り実感した自分自身の変化（興味･関心、考え方、学び方、生活、行動など） ・１年間の学びを、これからの生活や、学習、今後の生き方（進路選択・職業選択）にどのように活かしていくか。 ・１年間の学びを活かして今後やってみたいこと。 （＋α）まとめとして、探究学習×SDGs を行う県内外の学校と交流授業をすると、お互いに刺激となったり意欲が高まったりします。 **将来は、地球に優しい製品を作りたい！** **いろんな企業が地球温暖化対策に取り組んでいるんだなぁ。** **家族に節水を呼びかけるようになった！** **【１年の学びを振り返るためのワークシート（例）】** ※これを、キャリアパスポートと連動させると良いでしょう。

＜補足１＞生徒自身で考えることが難しい、時間に余裕がない場合は、教師側で用意し、生徒に選択させます。なるべく多様なテーマが揃うと良いでしょう。

＜補足２＞オフラインの場合は、現地でのフィールドワーク、社内見学、ワークショップをしていただく、など様々な形があります。事前に担当者と打ち合わせをしましょう。

＜補足３＞振り返る視点の例①考えたこと、興味をもったこと、もっと調べてみたいと思ったこと、②一番心にレゼン残ったこと、心に響いた一言、③ SDGs との繋がり、持続可能な社会づくりに大切なこと、④これから自分が周りの人と協力して取り組んでいきたいこと、⑤担当者へのメッセージ、等

＜補足４＞「自分の学びだけで終わらせない」「他者に気づきを与える発信を行うことで、みんなが行動者に」などプレゼンを行う目的を語ると生徒の意欲がアップします。

【STEP2】（広げる）SDGs ×組織連携×アイデア×自分

実施の目的：SDGs を世界規模で捉えなおすために、世界の様々な課題を知り、多様な視点で地域課題を捉え直し、自らの生き方あり方を問い直す。

生徒の目標：自分ごととして世界と関わるために、世界の SDGs 課題について探究し、課題解決のためのアイデアを明確にする。

事前の準備物：付箋、PC

目安時間	内容
導入 1～2コマ	**世界の課題って何だろう？** **【問い】〇〇年後の世界はどんな形だろう？** （例）技術革新が進んで、よりよい世界になっている。 格差が広がって、住みづらい世界になっている。 どんな回答も否定しない **【問い】世界における解決すべき課題はなんだろう？** **【問い】将来はどんな世界に住んでみたい？** チームで発表するのもいいかもしれません！ **【ワーク】地域のリソースを使ってよりよい未来を考えよう** ・金沢工業大学 SDGs 推進センターが開発した、「アクションカードゲーム X（クロス）」を使用して、地域のリソースを活用して世界の課題を解決するためのアイデアをグループで出し合う。 （https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/application/game-1.html） **【知る】今、世界にある様々な課題** ・グループ毎に調査する国を決めて、その国の SDGs 課題を SDGs Index and dashboard の結果と関連させて表にまとめる。 （https://www.sdgindex.org/reports/sustainable-development-report-2021/） データを比較する際に自分たちの地域のリソースを使って解決できる要素がるか聞き、データと生徒たちの考えを関連させてみましょう。

目安時間	内容
展開① 2～3 コマ	**世界の課題を解決するには？** **【ワーク】世界の様々な課題を自分たちのアイデアで解決しよう。** ・グループ毎に調査した国の SDGs 課題に対して、「アクションカードゲーム X（クロス）」で出されたアイデアやリソースを使って、解決策を提案する。 (例) ・ネパールの地域格差解消のために、地元の IT 企業と提携して、村落部の産業の販路を拡大する。 ・ガラパゴス諸島の自然保護と観光業を両立させるために、オンラインツアーを地元の NPO と企画し、ファンドレイジングにつなげる。 ・教育格差を解決するために、地域のネットワークインフラを活用して、日本の中学生と学び合う場をオンライン上に作る。 ・住み続けられる街づくりの実現のために、パートナー国とお互いの街の利点と課題を、Minecraft を使用してプレゼンする。その中で補い合える解決課題を見付け、自治体にアイデアを提案していく。 課題に対して様々な観点からアイデアを出し合うことで、柔軟に考えていくことができます。 **【深める】専門家にインタビューをしてアクションプランを練り直そう。** ・アクションプランを深めるために、関連企業に従事する方、大学生や青年海外協力隊 OV にインタビューを行う。 ・インタビューをして新たに得た視点や知識から、アクションプランを練り直す。 これをもとに、レゴや Minecraft を使用して実際の街づくりアイデアを深めることができます。 外部組織からアイデアをもらいます！
展開② 4～5 コマ	**どんなアクションが起こせるだろう？** **【準　備】アクションプランの企画書と紹介動画を作成し、発表の準備をしよう。** **【発表①】インタビューを行った組織に再度提案し、プランの妥当性について評価してもらう。** **【発表②】アクションプランを校内で共有し、相互評価・意見交換を行う。アクションプランを下級生へ引き継ぐ。** **【発表③】学校公開において、保護者や地域、外部組織等にアクションプランを紹介し、地域との繋がりを深める。** 外部の組織と連携することにより、多様な視点で世界や地域の課題を捉え直し、自らの生き方あり方を問い直す機会とします。
まとめ 1コマ	**地域のリソースはどのように使えるだろう？** **【まとめ】１年間の学びを振り返る（キャリアパスポートの活用）**

【STEP3】（変える）SDGs ×組織連携×変容×自分

実施の目的：外部組織と連携しながら課題解決を図り、Step1、２と経て自分の変化を振り返り、自らの生き方やあり方を問い直す。

生徒の目標：① SDGs ○○を中核に外部組織と連携して課題解決に挑む、②成果や課題を後輩に継承する、③探究手法を進路探究に活かす

付属資料：ワークシート

目安時間	内容
導入 １～２コマ	「何をどう持続させる？」〈ワークシート pp.1-14〉 **【問い】課題を ESD 目標で捉え直すと？** ・ESD 目標の理解＜ワークシート pp.5-12; 資料１＞ **【ワーク】英語定義文を自校に合わせて日本語に意訳する『〇〇版 ESD 目標』** ・ブレーンストーミング ８つのキーコンピテンシー（能力）をグループに割り振り、タイトルと定義文を自校に合わせて意訳する （例） Strategic competency: the abilities to collectively develop and implement innovative actions that further sustainability at the local level and further afield. 戦略的能力：ooの少子高齢化を食い止める、革新的で持続可能な行動（解決策）を地域及び離れた地域で住民と共に考え、実施する能力 意訳の正確さはあまりこだわらないで！英語でできない場合は日本語を使用する。 ・記録 グーグルスライドで共同編集する ・探究プロジェクトの概要作成〈ワークシート pp.13-14〉 グーグルクラスルームに提出する 他のチームはあんなこと考えてるんだぁ

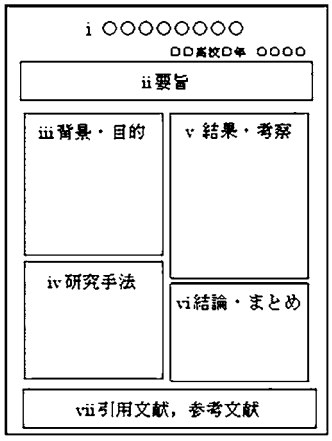
<table>
<tr><th>目安時間</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>展開①
２コマ
＋
２コマ</td><td>

どの探究手法を使う？〈ワークシート pp.15-17〉

【知る】統計手法

・探究テーマの設定、情報収集、分析、まとめ方を学ぶ

（例）



コンテスト等のゴールを見せます。ライバルは校外！

よし！がんばろう！

「構想発表会」を事前に設定するのも良いでしょう。

【中間発表会】〈ワークシート pp.18-19〉

・以下の基準で探究行程を評価する

① SDGs との関連が自覚できているか

②統計的解釈があるか

③所属学校集団以外との連携があるか

（学校・地縁組織・NPO/NGO・学術 / 研究機関・自治体・企業）

</td></tr>
<tr><td></td><td>

探究活動例

これまでの探究活動の繋がりを活かして課外活動として展開します。

・森林組合や地元企業と共同で小学生への木育プログラムを作成実施。ビジネスプランに基づき事業所と間伐材の商品化。積み残した課題は下級生へ。

・地方気象台と地元大学の指導に基づき防災プランを学校と自治体へ提案。教科英語とも連動させ、海外学校と防災をテーマに交流。小学校への出前授業案立案。

・イベントを地元 NPO と企画。学校行事と絡めてプログラム開発。集客力を高めるためアプリ開発企業に相談。

</td></tr>
</table>

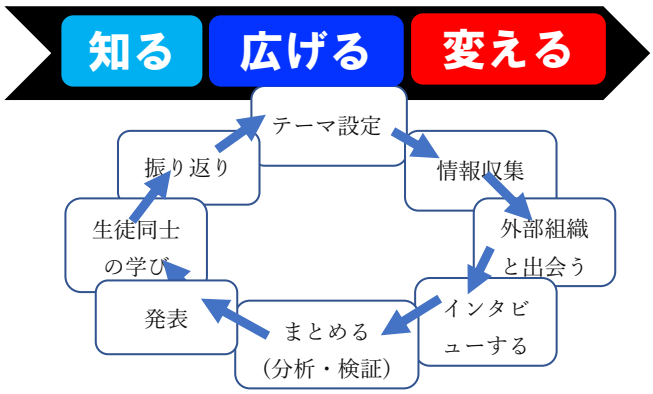
目安時間	内容
展開② 1コマ ＋ 1コマ	**良いプロジェクトとは？〈ワークシート pp.20-21〉** **【学年発表会①】** ・学年でベスト３プロジェクトを選出する 外部の大人や専門家とつながると課題へのアプローチ法が激変します。 自分たちにもこんなことができる！ **【学校発表会②→地域内外発表会】** ・他学年選出プロジェクトも含めて、外部組織関係者を招いた探究成果発表を実施する 先輩すごい！ 若いのもやるな！ ・コンテスト等に応募し発表する ドキドキ… まだまだだぁ… 厳しい…
まとめ 2コマ	**自分の在り方生き方とは？〈ワークシート pp.22-25〉** **【問い】良いプロジェクトを実現するには？** ・探究成果と課題を下級生に引き継ぐ ・応募コンテスト一覧をまとめ、校内で共有する ・〇〇版 ESD 目標を下級生に引き継ぐ 次年度も縦割り探究を！ **【まとめ】変わった vs 変わらなかったこと＆変えたかった vs 変えるべきだったこと** ・キャリアパスポートにまとめる ・進路実現に向けて探究手法を整理する 様々な手法を活用してキャリア形成を一緒に楽しむ！

＜補足＞

関心のある進路や職業と関連させて個人で取り組むこともできます。Step1、２の探究活動を経て、インタビューや統計等の手法も取り入れながら、最後は個々の進路探究に繋げます。進路探究の成果等も最下級生に発表すると、憧れのモデルを身近に見つけ、これから自分に起こる学校生活や行事等の目標・目的を明確化できます。最上級生は内容を噛み砕いて発表するスキルを磨き、物事の本質に迫る機会を得ることができます。発表会の企画運営も生徒に任せるとよいでしょう。

★各ステップのポイント

1　テーマ設定は？
2　情報収集は？
3　どのような外部組織と連携する？
4　インタビュー方法は？
5　まとめの方法は？
6　発表の場は？
7　生徒同士の学びをどう促す？
8　自身の生き方・あり方を考える振り返りは？



	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
①テーマ設定	・SDGs と関連し、地域と関わりのあるテーマを教師が用意。生徒が選択する。	・世界の課題から、生徒がテーマを設定する。	・ESD 目標を地域版に意訳したのち生徒がテーマを設定する。
②情報収集	・企業の HP ・SDGs との関わり	・SDGs INDEX	・データサイエンス（gacco、RESAS、e-STAT）
③外部組織との連携	・県内の大学 ・企業 ・事業者 ・自治体	・大学 ・企業 ・JICA 海外協力隊 OB ・NPO	・学校（小中高大、高専） ・NPO ・学術研究機関 ・自治体 ・企業
④インタビュー方法	・「持続可能な社会づくり」に関する質問事項の作成	・アクションプラン企画提案会	・プロジェクトへのフィードバック
⑤まとめの方法	・振り返りシート ・礼状 ・レポート	・動画でまとめる	・探究論文・ポスター・動画・コンテスト等応募形式
⑥発表の場	・小グループプレゼン ・学年発表会 ・他校との交流授業	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内発表会 ・各種コンテストへの参加	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内外発表会 ・各種コンテストへの参加
⑦生徒同士の学び	・付箋によるコメント（中間発表会） ・相互評価（プレゼン）	・相互評価	・相互評価
⑧振り返り	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート

①テーマ設定は？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
①テーマ設定	・SDGs と関連し、地域と関わりのあるテーマを教師が用意。生徒が選択する。	・世界の課題から、生徒がテーマを設定する。	・ESD 目標を地域版に意訳したのち、生徒がテーマを設定する。

Step1 から地域→世界→地域や世界、と段階を経ることで、Step3 では諸課題に「自分も取り組みたい」という気持ちがマックスになります。また、Step2 で一度地域から離れてみることで、地域の魅力や課題がより浮き彫りになります。段階を経るごとに自らテーマを設定できるようになります。

〈Step1 テーマ例〉地域と関わりのあるテーマ

最初のステップでは、地域と関わりのあるテーマを教師が複数用意し、生徒に選ばせてもよいでしょう。外部組織にインタビューをする場合は、このテーマ設定の段階からテーマに関連のある企業等にアポイントメントを取っておくと良いでしょう。

（例）「外国からの持続可能な原材料調達と印刷産業」「気候変動・地球温暖化の実際と対策を学ぶ」「持続可能なエネルギー生産とは？」「教育・芸術× SDGs ～平和で公正な社会を当たり前に～」「水辺から始まる生態系ネットワーク」「地球や人に優しいエシカルな消費とは？」「障がい者の活躍～就労支援×チョコレート～」「省エネハウス× SDGs ～日本エコハウス大賞の要因を探る～」「一歩進んだ地球温暖化対策とは？」「私たちにできる国際協力を学ぶ」「地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP ！」「持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは？」「世界農業遺産に登録された地域が目指すものとは？」「日本初！米を原料としたバイオマスプラスチックとは？」「人と街と地球に優しい家づくりとは？」「テクノロジー×大学× SDGs で世界の課題解決へ！」「SDGs 未来都市の取組とは？」「北国で南国フルーツがとれる理由～地域資源を活かした循環型農業～」「SDGs ×スーパーの取組とは？」

〈Step2 テーマ例〉私たちがつなげる「ジモト」と「セカイ」

中学 1 年で学んだ地域と関わりのあるテーマ学習を生かして、自分の住んでいる町と世界との関わりを考えます。

（例）IT 企業と連携して、ネパール農村部の販路を拡大しよう／観光協会と連携して、ガラパゴス諸島のオンラインスタディツアーを企画しよう／漁業組合と連携して、新鮮な魚の販路を拡大しながら海の豊かさを守ろう／森林組合と連携して端材を用いた工芸品を販売しよう

〈Step3 テーマ例〉ESD の目標

SDGs を活用した地域探究経験者向きです。地域の課題を SDGs を通して捉え直します。何を目的に学ぶのか、学びを通してどのような思考態度やスキルを身に着けるのか、ユネスコが掲げる教育目標に照らし合わせて考え直してみます。少し高度な活動ですが、「みんなと一緒に探ってみる」という感覚で取り組むと楽しくなると思います。難しい言葉を自分たちの状況に合わせて意訳すると、ユネスコが掲げる目標もぐっと身近に感じるようになります。この活動をしたからテーマが浮き彫りになるというより、この活動を経ることで、これから取り組む探究活動が最終的にどのような力の育成につながるのか、という「振り返りの視点を得ること」につながります。

〈その他の例〉

（1）日本が抱えている社会課題から

・SDGs を視点に、日本が抱えている社会課題や様々な取組を知り、○○市でできることを考える。（社会課題解決中 MAP より）

（選んだ課題について、現在行われている取組について、○○市の課題に繋がると思うこと、○○市で行っている取組、課題解決のために、自分ができること）

社会課題解決中MAP

（2）問いづくりから

・持続可能な地域づくりや社会課題の解決に取り組む『問い』を立てる。

（興味のあるテーマを選ぶ、情報・データ収集、仮説・発見「○○すれば～になるのではないか？」、問いづくり「課題解決型の問い」「資源活用型の問い」）

【参考文献】『実践　地方創生× SDGs　持続可能な地域のつくり方
未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』筧裕介　著（英治出版）

（3）「地域を歩いて気づいたこと」から

・地域巡りをした後で「20 年後も 30 年後も残したい○○地区の魅力は？それを残すためにすべきことは？課題は何だろう？中学生ができることは？」の問いに対して、マインドマッピングで書き出し、テーマを絞る。

（4）「首長メッセージ調査×アクションカードゲームクロス」から

・HP を見れば手軽に首長メッセージを知ることができます。首長は地域の課題をいつまでにどう取り組もうとしているのか、それにどんな人が賛同／反論しているのか、これを考えることで地政理解も進みます。首長に実際に話してもらうとより身近に課題を捉えられます。（下図その１参照）

・地域課題の理解を踏まえてアクションカードゲームクロスに取り組むと、限られたリソースから発想を広げる楽しさも味わえます。その後のテーマ設定に役立つでしょう。

（5）地域会議を通して

・地域では様々な団体による会議が行われています。どのような団体がいつまでにどんなことをどのように達成しようとしているのか、実際に見たり聞いたりできます。課題そのものが見えるのでテーマ設定に直結します。（下図その２・下図その３参照）

第１回津南未来会議(5/28)(その１)

▪桑原町長・・・日本一生き生きとした町を目指したい！しかし、課題を先送りしている、人口減少が激しい、がけっぷちだ、しかしまだリカバリーするチャンスはある、皆の知恵と活動を結集して未来を切り開きたい、解決策の一つが人々の交流によるつながりづくり、町の中の住民同士と住民とよその人のつながりを活発にすることで課題を乗り越えていきたい、そのために既存の組織を超えたＤＭＯを課題を乗り越える場として創り上げたい。

地域がよくなるためには(その２)

○現状の問題点、心配、不安！

▪近隣がシャッター街に、子ども達が外で遊ばない、秋山郷の10年後は大丈夫か、雪の魅力と言ってもスノーボードしか楽しみがない、子ども達が閉じ込められた環境にいすぎる

○こういう町でありたい、10年後にはこんな町にしたい！

▪子ども達に戻ってこいと自信を持って言えるように、高齢者が暮らしたい町ナンバーワン、都会の人が望むものがなんでもある町

→皆で議論してこういう取り組みをしたい！

皆で議論してこういう取り組みをしたい(その３)

- 移住しやすい仕組み
- 農村の景色を守る
- 子ども達が外で遊べるように
- お年寄りが生き生きとしている場
- 皆が共生できるように
- つながりを大切にする町
- 子どもと大人をつなげる場
- 横つなぎ出来る町
- 津南学など地元を知る活動
- 農業で稼げるように
- 世帯所得をアップさせたい
- 観光客など外の人から評価されるように
- なじょもんを縄文体験アトラクション施設に
- 民泊
- 特産品の販路拡大
- おにぎりギネス挑戦
- まちなかにお金を落とす仕組み
- おいしいものなどを発信
- グリーンツーリズムジオツーリズムを活かした教育旅行
- 最大の財産である雪を活かす

②情報収集は？

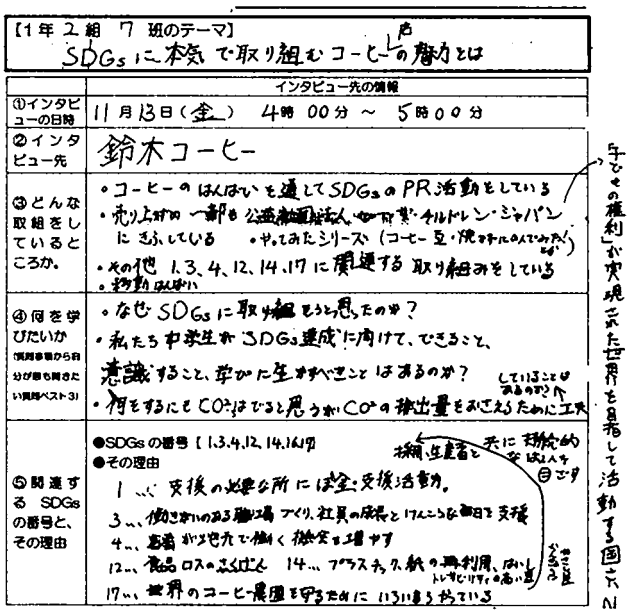
	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
②探究方法	・企業の HP ・SDGs との関わり	・SDGs INDEX	・データサイエンス （gacco、RESAS、e-STAT）

Step1 から Step3 と段階を経ることで、より自立的に情報にアクセスできるようになります。また、その情報が確かかどうかの判断力も高まっていきます。各組織からの情報がどのように収集され、発信されているかを直視することになるので、それはその後の③組織連携、④インタビュー方法、⑤まとめ方、⑥発表方法にまで関連して活きてきます。

〈Step1 情報収集例〉

テーマが決まったら、「自分は何を知りたいのか」を明らかにし、調べ学習を行います。外部組織にインタビューをする場合は、①何をしているところ？②企業理念は？③ SDGs との関連は？④この分野はすごい！ということは？⑤持続可能な社会やレジリエントな社会づくりにつながる取組は？⑥その他、などについて調べてからインタビュー内容を考えると良いでしょう。右図のようなワークシートを用意すると、生徒はまとめやすいと思います。

右図の例では、生徒は企業の HP を見て、取組等をまとめ、そこから SDGs との関連を考えました。実際にインタビューを行う前に、SDGs のレンズを通して、企業の取組を理解しておくと良いでしょう。このワークシートを、全テーマ分をコピーし、一覧にまとめて配布すると、他の班のテーマから横断して学ぶことができ、充実した事前学習になるでしょう。


【1年 2 組 7 班のテーマ】
SDGsに本気で取り組むコーヒーの魅力とは

	インタビュー先の情報
①インタビューの日時	11月13日（金） 4時 00分 ～ 5時00分
②インタビュー先	鈴木コーヒー
③どんな取組をしているところか。	・コーヒーのはんばいを通してSDGsのPR活動をしている ・売り上げの一部を公益財団法人 チルドレン・ジャパンにさふしている ・やってみたシリーズ（コーヒー豆・焙ぜんのようすなど） ・その他 1.3、4、12、14、17に関連する取り組みをしている ・移動はんばい
④何を学びたいか（質問事項から自分が聞き聞きたい質問ベスト3）	・なぜSDGsに取り組もうと思ったのか？ ・私たち中学生がSDGs達成に向けて、できること、意識すること、学びた生かすべきことはあるのか？ ・何をするにもCO2はでると思うがCO2の排出量をおさえるために工夫
⑤関連するSDGsの番号と、その理由	●SDGsの番号【1.3.4.12.14.17】 ●その理由 1…災後の必要な所には全て支援活動。 3…働きがいのある職場づくり、社員の成長とけんこうな毎日を支援 4…高齢者や世代で働く機会を増やす 12…食品ロスのさくげん 14…プラスチック、紙の再利用、ないしトレーサビリティの高い豆 17…世界のコーヒー農園を守るために いろいろ考えている

〈Step2 情報収集例〉

テーマが決まったら、SDGs INDEX（https://www.sdgindex.org/）を活用して、自分たちの興味のある国の情報を収集します。対象となる国の情報を俯瞰的に見るために、SDGs Index Rank と特に顕著な Trends（傾向）を調べるように伝え、地元企業との連携の可能性について考えます。

〈Step3 情報収集例〉

教師のサポートをほとんど必要とせず、自ら情報収集からまとめ方まで、場合によっては発表方法まで盛り込んだプランニングになります。

・gacco：無料の学習プラットフォームです。メールアドレスを使ってアカウントを作成後、必要な情報にアクセスします。自分のペースで学習できます。グループは視聴するプログラムを分担するとよいでしょう。統計手法や AI を使ったビジネス展開などについても学習できます。

・RESAS：地域経済分析ツールで、課題発見＆分析＆解決、情報収集＆分析＆活用、論理的思考、プレゼンテーション、それぞれ授業モデル指導案を入手できるので、ねらいに応じて活用することも可能です。生徒が使用する場合は、テーマが決まった段階で活用すると多角的・複眼的に課題に迫ることができます。また、テーマに応じて表やグラフなどが自動出力されるので作成の手間が省けます。コロナ禍の経済関連も調査できます。内閣府地方創生推進室主催の「地方創生・政策アイデアコンテスト」と連動しているので、RESAS を活用した探究をコンテストに応募したり、他団体の発表を聞いたりして、新たなつながりを作る場としても使えます。

・e-STAT：政府統計を活用するためのツールで、テーマが明確な場合に役立ちます。主張をより客観的にサポートするために活用します。RESAS と同じく表やグラフを自動出力してくれるので作成手間が省けます。

③どのような外部組織と連携する？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
③外部組織との連携	・県内の大学 ・企業 ・事業者 ・自治体	・大学 ・企業 ・JICA 海外協力隊 OB	・学校（小中高大、高専） ・NPO ・学術研究機関 ・自治体 ・企業

Step1 から Step3 と段階を経ることで自発的に、かつ zoom 等のデジタルデバイスを活用して地理的・金銭的・時間的な問題も解決しながら組織にアプローチできるようになります。一度関係が確立できた団体とはその関係を継続したいものです。様々な人を巻き込みながら探究が展開されます。

〈Step1 の例〉

連携する外部組織は、生徒や教師がインターネットや新聞、書籍などから見つけたり、ネットワークを使い繋がったりと様々です。外務省の Japan SDGs Action Platform（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/org1.html）には、SDGs に取り組む全国の企業の HP リンクがあります。こちらから調べても良いでしょう。「地域創生プラットフォーム SDGs にいがた」の情報を参考にし、リストアップした例は以下の通りです。

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート（敬称略）
1	電気自動車を活用した地域 SDGs の取組とは？	新潟国際情報大学
2	地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!	新潟スワンエナジー（株）
3	持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは？	（株）第四銀行
4	SDGs ×スーパーの取組とは？	原信ナルスオペレーションサービス（株）
5	島の大自然や人の温かさをたっぷり詰め込んだゲストハウスの魅力とは？	粟島ゲストハウス おむすびのいえ
6	世界農業遺産に指定された地域が目指すものとは？	佐渡市の農業従事者
7	新聞社× SDGs ～『地方創生プラットフォーム SDGs にいがた』が目指すこと～	（株）新潟日報社
8	SDGs ×循環×地域の特産物『バナナ』とは？	シモダ産業（株）
9	日本初！米を原料としたバイオマスプラスチックとは？	（株）バイオマスレジン南魚沼
10	SDGs 未来都市の取組とは？	見附市
11	外国からの持続可能な原料調達と製紙業	北越コーポレーション（株）
12	村上市で南国フルーツがとれる理由は？ ～地域資源を活かした循環型農業～	（株）開成

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート（敬称略）
13	地球や人に優しい消費のあり方とは？	にいがたフェアトレード推進委員会
14	水・食・エネルギー× SDGs	（株）テクノシステム
15	人と街と地球にやさしい家づくりとは？	（株）ナレッジライフ
16	SDGs に本気で取り組むコーヒー店の魅力とは？	（株）鈴木コーヒー
17	テクノロジー×大学× SDGs で世界の課題解決へ！	長岡技術科学大学
18	水辺からはじまる生態系ネットワーク	水の駅 ビュー福島潟

〈Step2 の例〉

この段階では生徒が考えた地元企業と各自で設定した相手国との間で連携できるアクションプランの企画を深めていきます。教師はあらかじめ大学のゼミナールや上級学校と調整をし、生徒の企画を評価してもらうよう依頼します。生徒に早い段階でアウトプットの機会を提供することで、企画を言語化し、より具体的なアイデアを作り上げます。

〈Step3 の例〉

テーマに応じた団体に各々でアプローチします。取り組み（プロジェクト）が多くの関係者に及ぶほど、教師のサポートも必要になります。大きくて良いインパクトが想定される場合は、そのプロジェクトを学年や学校全体の行事やカリキュラムに取り入れることも考えます。大きくて良いインパクトは外部組織の協力が必須で、「特定の生徒だからできた」のではなく「この学校の誰でも取り組める」プロジェクトとして長期的スパンで学校に根付かせることが大切です。

〈その他の例〉

・各種レポート（SDGs 関連）で頑張る組織を知りコンタクト

④インタビュー方法は？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
④インタビュー方法	・「持続可能な社会づくり」に関する質問事項の作成	・アクションプラン企画提案会	・プロジェクトへのフィードバック

インタビューは枠にはめてスタートしますが、Step を経るごとに連携目的が変化していきます。社会変革に本気で取り組む当事者と関われる経験は何物にも代えがたい貴重な経験になります。児童や生徒の本気度も高まり、それが当事者の本気度も高めることにつながります。

〈Step1 の例〉

最初のステップでは、事前学習をした後、学びたいことを「質問事項」にまとめ、インタビューの担当者に事前に送ります。調べ学習ではなく、実際のインタビューだからこそ学べることを質問するよう班内で深めましょう。

（例）

・「越後バナーナ」は、これまでにどのような人たちが関わってできたのでしょうか。
・環境保全のために、中学生ができることはありますか。
・現在使用している肥料にSDGsは関係していますか。関係している場合は、どのゴールに関係していますか。
・世界農業遺産に認定された９年間で、どのような変化がありましたか。
・佐渡の学校で、「朱鷺と共生を目指す米づくり」について学習することはありますか。
・「SDGs にいがた」の会員の皆様と、これからどのような取組をしていきたいと考えていますか。
・SDGs を自分事にするために、新聞を読む時のポイントはありますか。
・「地域循環共生圏」とはどのようなことでしょうか。
・食品ロス対策として、何か工夫して取り組んでいることはありますか。
・御社のバイオマスプラスチックは、新潟県内で、どのような製品に、どれくらい使われているのでしょうか。また、県外での使用はありますか。
・バイオマスプラスチックの原料に米を選んだ理由は何ですか。
・現在、私たちは SDGs について学習しているところですが、御社の取組に私たちが貢献できることはありますか。
・普段物を購入する際、商品の選択や消費において、私たちが気を付けるべきことがあれば教えてください。

〈Step2 の例〉

自分たちの企画をスライドにまとめ、大学生に提案します。大学生にはあらかじめ企画の主旨を伝え、ゼミナールの研究内容とも関連づけられるように調整を行います。提案方法は、オンライン会議システムを使用し、移動のコストを下げました。生徒には企画提案の主旨を伝え、プレゼンの仕方やマナーについて指導を行います。やり取りの内容はワークシートに記入させ、改善点について共有を行います。

〈Step3 の例〉

良いフィードバックをもらうには誠意が大切です。すごい人はだいたい忙しいです（笑）。スピード感を持って対応するためにもメールや SNS、共有プラットフォームなどを使いこなすようにして誠意を忘れず行動することを心掛けたいものです。また、失敗もつきものです。失敗にめげないガッツ（grit）も大事ですが、落ち込んだ時はサポートが必要です。サポート体制も確立しておきたいものです。

〈その他の例〉

・インタビューを通してキャリアを開拓してきた大人にインタビューの心構えを聞く
・SNS・メール・電話・手紙・コネ

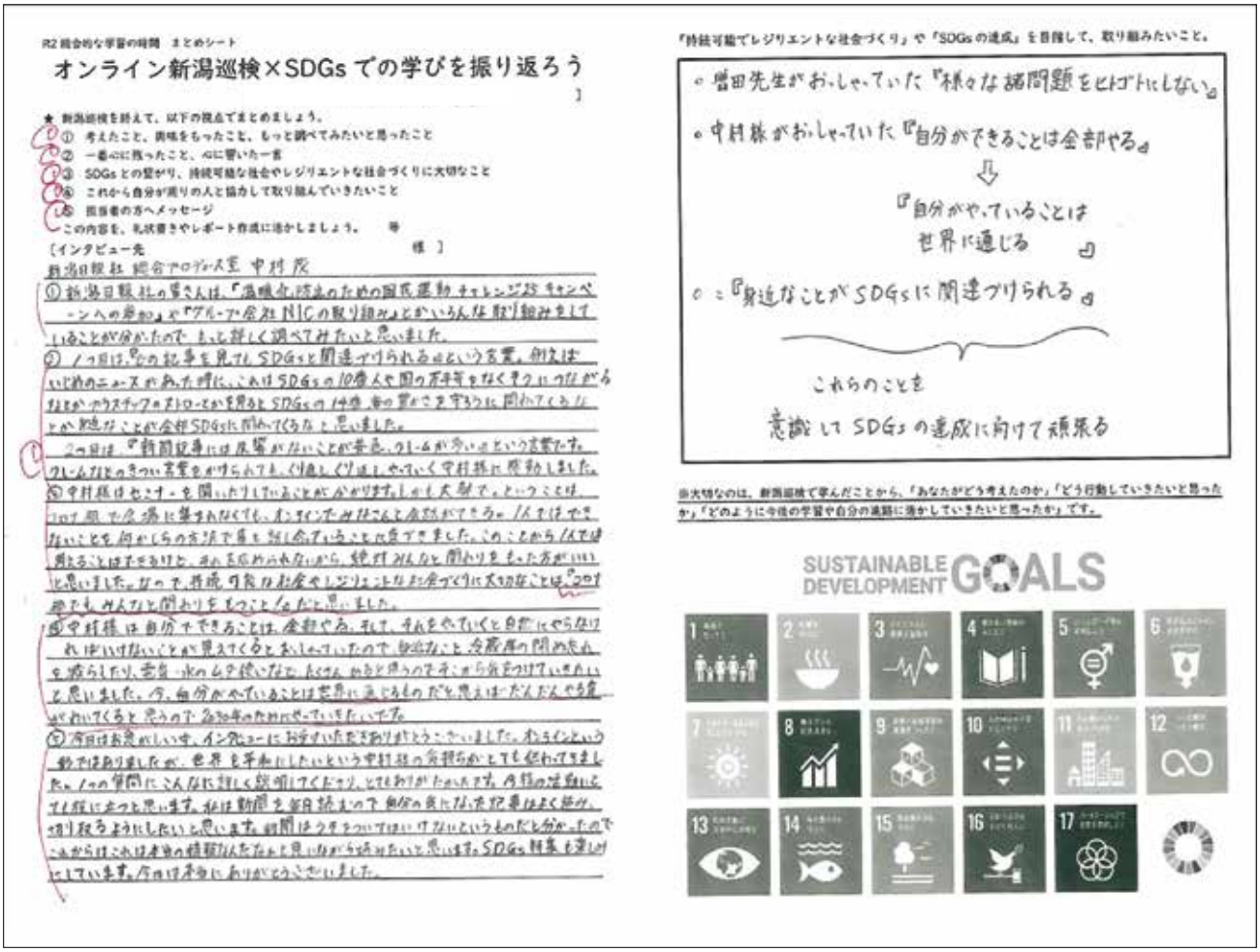
⑤まとめの方法は？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
⑤まとめの方法	・振り返りシート ・礼状 ・レポート	・動画でまとめる	・レポート・ポスター（探究テーマの設定、情報収集、分析、まとめ）

Step1 から Step3 と段階を経るごとに、「知ってわかったこと」「広げてわかったこと」「変えてわかったこと」があります。それぞれを外部に発信します。これまでとは違う人たちからのフィードバックがもらえ、さらに探究心が深まります。

〈Step1 の例〉

Step1 では、まとめを「振り返りシート」、お世話になった事業者様への「礼状」、プレゼン発表で使用する「レポート」の３段階としました。各段階の振り返りのねらいを説明することで、生徒はより真剣に取り組むでしょう。中学１年生には、振り返りのポイント」を与え、論理的に学びを表現するよう指導しました。この振り返りは、２年生の職場体験や修学旅行でも同様にできます。


R2 総合的な学習の時間　まとめシート

オンライン新潟巡検×SDGs での学びを振り返ろう

★ 新潟巡検を終えて、以下の視点でまとめましょう。
① 考えたこと、興味をもったこと、もっと調べてみたいと思ったこと
② 一番心に残ったこと、心に響いた一言
③ SDGs との繋がり、持続可能な社会やレジリエントな社会づくりに大切なこと
④ これから自分が周りの人と協力して取り組んでいきたいこと
⑤ 関係者の方へメッセージ
この内容を、礼状書きやレポート作成に活かしましょう。　等

〔インタビュー先　　様〕

新潟日報社 総合プロデュース室 中村様

①新潟日報社の星さんは、「温暖化防止のための国民運動チャレンジ25キャンペーンへの参加」や「グループ会社NICの取り組み」とかいろんな取り組みをしていることが分かったので もっと詳しく調べてみたいと思いました。

②1つ目は『この記事を見てSDGsと関連づけられる』という言葉。例えばいじめのニュースがあった時に、これはSDGsの10番人や国の不平等をなくすことにつながるなとか、ウェブチップのエコロとかを見ると SDGsの14番 海の豊かさを守ろうに関わってくるなとか 身近なことが全部SDGsに関わってくるなと思いました。

この日は『新聞記事には主語がないことが普通。クレームが多いよ』という言葉でした。クレームなどのきつい言葉をかけられても、くじけずくじけしやすいく中村様に感動しました。

③中村様はセンサーを開いたりしていることがかがいます。しかも大胆で、ということは、コロナ禍で会場に集まれなくても、オンラインでみなさんと会話ができる。1人ではできないことを何かしらの方法で集まり話し合うことも出来ました。このことから1人では動くことはまずありえと、あれも思われられないから、絶対みんなと関わりをもった方がいいと思いました。なので、将来、自分はお金やしごとなどお金づくりに大切なことは『コロナ禍でもみんなと関わりをもつこと』なんだと思いました。

④中村様は自分でできることは、全部やる。そして、それをやっていくと自然にやらなければいけないことが見えてくると おしゃっていたので 勉強なと冷蔵庫の開めもれを減らしたり、電気・水のムダを減らしたり、たくさん 知ると 使うのでそこから発見つけていきたいと思いました。今、自分がやっていることは世界に通じるものだと思えばだんだんやる気がわいてくると思うので 自分のために やっていきたいです。

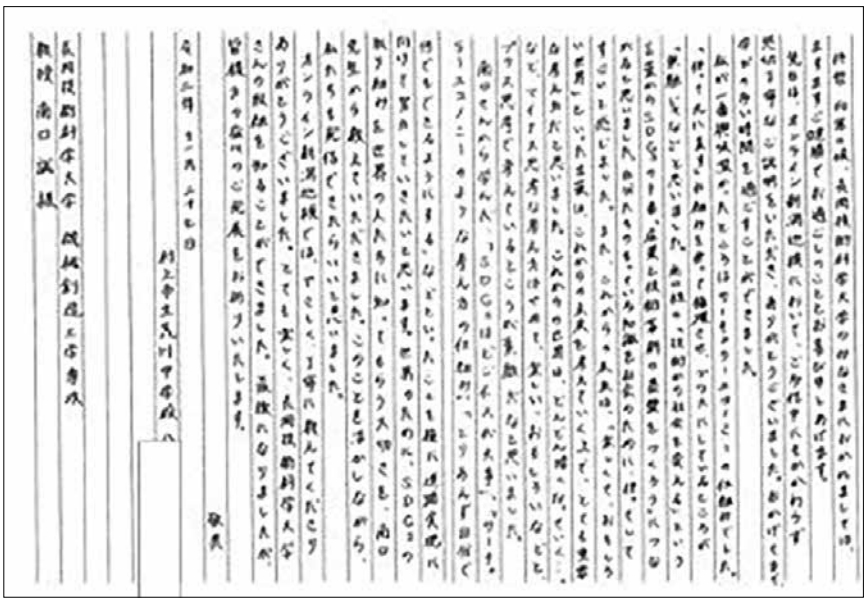
⑤今日はお忙しいなか、インタビューにお受けいただきありがとうございました。オンラインという形ではありましたが、世界を平和にしたいという中村様の気持ちがとても伝わってきました。1つの質問にこんなに詳しく説明してくださり、とてもありがたかったです。今日の活動は、すべて様にかつと思います。私は新聞を毎日読まないので 自分の身になったお話はよく分かり、勉強するようにしたいと思います。新聞は うのみにしてはいけないというものだと分かったので これからはこれは本当の情報なんだなと思いながら読みたいと思います。SDGs 関係も深いかとしています。今日は本当にありがとうございました。

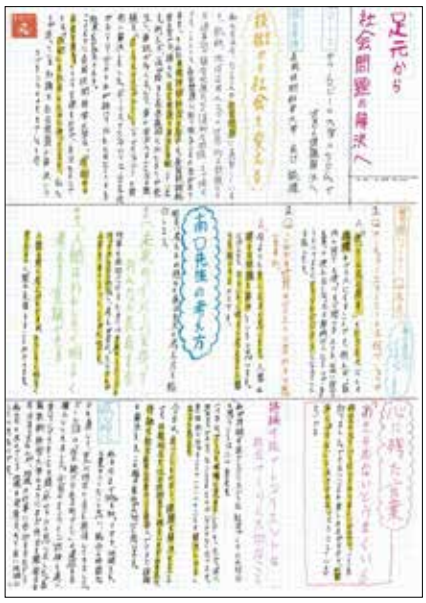
『持続可能でレジリエントな社会づくり』や『SDGsの達成』を目指して、取り組みたいこと。

・増田先生がおしゃっていた『様々な諸問題をヒトゴトにしない』
・中村様がおしゃっていた『自分ができることは全部やる』
⇩
『自分がやっていることは世界に通じる』
・『身近なことがSDGsに関連づけられる』

これらのことを
意識してSDGsの達成に向けて頑張る

※大切なのは、新聞巡検で学んだことから、「あなたがどう考えたのか」「どう行動していきたいと思ったか」「どのように今後の学習や自分の進路に活かしていきたいと思ったか」です。





〈Step2 の例〉

企画提案会を経て推敲された各自のアクションプランを、それぞれ動画にまとめさせます。作成にはwindowsに搭載されているカメラ機能とビデオエディターを使用しました。時間は３分程度を目安に設定し、表現方法は各自に委ねます。スライドと寸劇を併用している班が多く見られました。生徒の動画は企業が展開している選考会などに応募することで、生徒の作品がより多くの団体に評価される機会を提供できます。

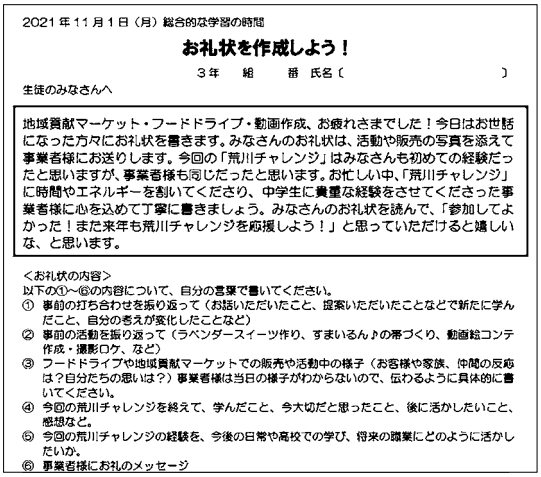
〈Step3 の例〉

まとめと発表はセットで考えます。外部組織と連携した取り組み（プロジェクト）は相当なインパクトを内外に与えます。新聞や TV などのメディアに取り上げてもらうとさらにそのインパクトは大きくなります。客観的なデータ等に裏付けられた主張は「統計グラフコンクール」などでも評価されます。それぞれのコンテスト等の書式に合わせてまとめます。また、成果物をデジタルで残しておくと共有しやすいです。SDGsで捉え直すとその有用性や時限性も確認できます。

〈その他の例〉

・「外部組織へのお礼状について」

外部組織との連携では、学習後のお礼状が大切です。協力していただいたお礼を、迅速に誠意を込めてお届けするのが鉄則です。「スピードは誠意」！一度繋がった外部組織との連携を今後も持続させるためにも、繋がりを大切に、心のこもったお礼状を書けるよう指導したいものです。



2021 年 11 月 1 日（月）総合的な学習の時間

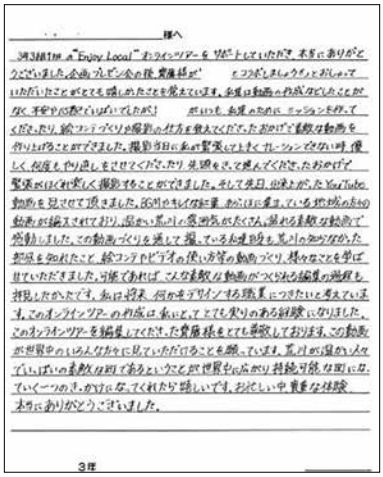
お礼状を作成しよう！

３年　　組　　番　氏名（　　）

生徒のみなさんへ

地域貢献マーケット・フードドライブ・動画作成、お疲れさまでした！今日はお世話になった方々にお礼状を書きます。みなさんのお礼状は、活動や販売の写真を添えて事業者様にお送りします。今回の「荒川チャレンジ」はみなさんも初めての経験だったと思いますが、事業者様も同じだったと思います。お忙しい中、「荒川チャレンジ」に時間やエネルギーを割いてくださり、中学生に貴重な経験をさせてくださった事業者様に心を込めて丁寧に書きましょう。みなさんのお礼状を読んで、「参加してよかった！また来年も荒川チャレンジを応援しよう！」と思っていただけると嬉しいな、と思います。

＜お礼状の内容＞
以下の①～⑥の内容について、自分の言葉で書いてください。
① 事前の打ち合わせを振り返って（お話いただいたこと、提案いただいたことなどで新たに学んだこと、自分の考えが変化したことなど）
② 事前の活動を振り返って（ラベンダースイーツ作り、すまいるん♪の帯づくり、動画絵コンテ作成・撮影ロケ、など）
③ フードドライブや地域貢献マーケットでの販売や活動中の様子（お客様や家族、仲間の反応は？自分たちの思いは？）事業者様は当日の様子がわからないので、伝わるように具体的に書いてください。
④ 今回の荒川チャレンジを終えて、学んだこと、今大切だと思ったこと、後に活かしたいこと、感想など。
⑤ 今回の荒川チャレンジの経験を、今後の日常や高校での学び、将来の職業にどのように活かしたいか。
⑥ 事業者様にお礼のメッセージ



⑥発表の場は？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
⑥発表の場	・小グループプレゼン ・学年発表会 ・他校との交流授業	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内発表会 ・各種コンテストへの参加	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内外発表会 ・各種コンテストへの参加

Step1 から Step3 と段階を経ることで、より大きな発表の場をたくさん経験することになります。一度の経験で終わることなく、何度も経験する機会を与えましょう。失敗も経験するかもしれませんが、それが糧となり自信につながるよう導きます。

〈小グループの例〉

ブレインストーミングや場慣れがねらいです。様々な意見が出やすい雰囲気づくりが大切です。発表することが「心地よい」「ためになる」「もっと発表したい・知りたい」と思えるよう配慮する必要があります。

〈学年の例〉

共通の評価の観点を事前に共有します。共通の目的を共有することが大切です。

〈学校の例〉

聞き手が自分より年上か年下かで使う言葉等が変わります。目的に応じて伝える内容を吟味します。教師は学校全体のカリキュラムのねらいも更新するつもりで取り組みを評価します。

〈学校外の例〉

聞き手の状況に応じて伝える内容を吟味します。評価の観点が示されている場合はそれに則ります。また、この段階ではインパクトを与えることが目的なので、その目的が達成されたかを評価するようにします。

〈英語での発表〉

学習外国語を使用する機会を設けると授業や家庭学習の取り組み方法が変わります。通じる喜びを経験できるよう最初は入念に準備させ、段階を追って最終的には教師の支援なしでも意思疎通できるようスモールステップを用意します。

⑦生徒同士の学びをどう促す？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
⑦生徒同士の学び	・付箋によるコメント（中間発表会） ・相互評価（プレゼン）	・相互評価	・相互評価

Step1 から Step3 と段階を経ることで、教師のサポートや評価の割合を減らします。自分たち同士の評価で学びを更新していけるようにします。互いの評価が見えるようデジタル共有を活用します。仲間の評価は一番の原動力です。

〈Step1 の例〉

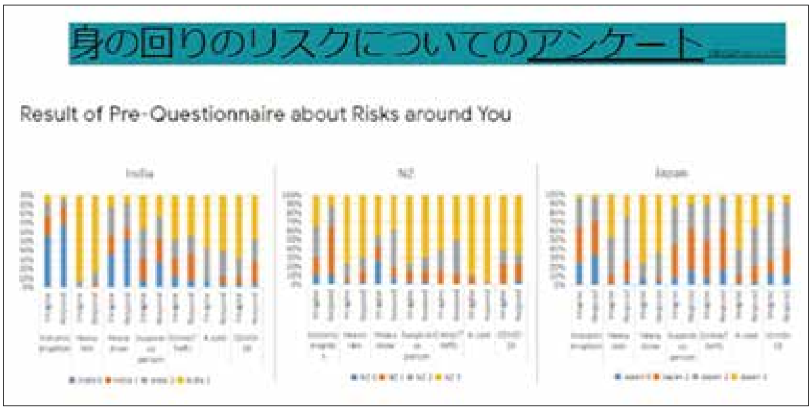
Step1 では、プレゼン大会の時に、右図の相互用紙を使って相互評価を行いました。「聞き手へのプレゼントとして一生懸命プレゼンした人たちに敬意を表し、心をこめて評価・メッセージを書こう」と伝えると、生徒は緊張感をもってプレゼンを聞きますし、学びや感想等を評価用紙に記入していました。前半・後半のプレゼンで一人 10 枚の評価用紙を書いてもらうことになります。プレゼン時は緊張しつつも、多くの仲間からのメッセージを読んで、生徒はとても嬉しそうでした。

また、１年間の振り返りをした後も、生徒同士で学びを共有する時間を設けました。「仲間の考えやアイデアを引き出し、自分の学びに活かそう」と投げかけ、お互いにインタビューを行いました。１年間の仲間の成長を実感できる時間となりました。

〈Step2 の例〉

作成した動画を学校内で期間を決めて公開することにより、相互評価の場を設定します。視聴した後に、アンケート集計ソフトなどに入力することで企画の面白さや改善点が見つかることになります。

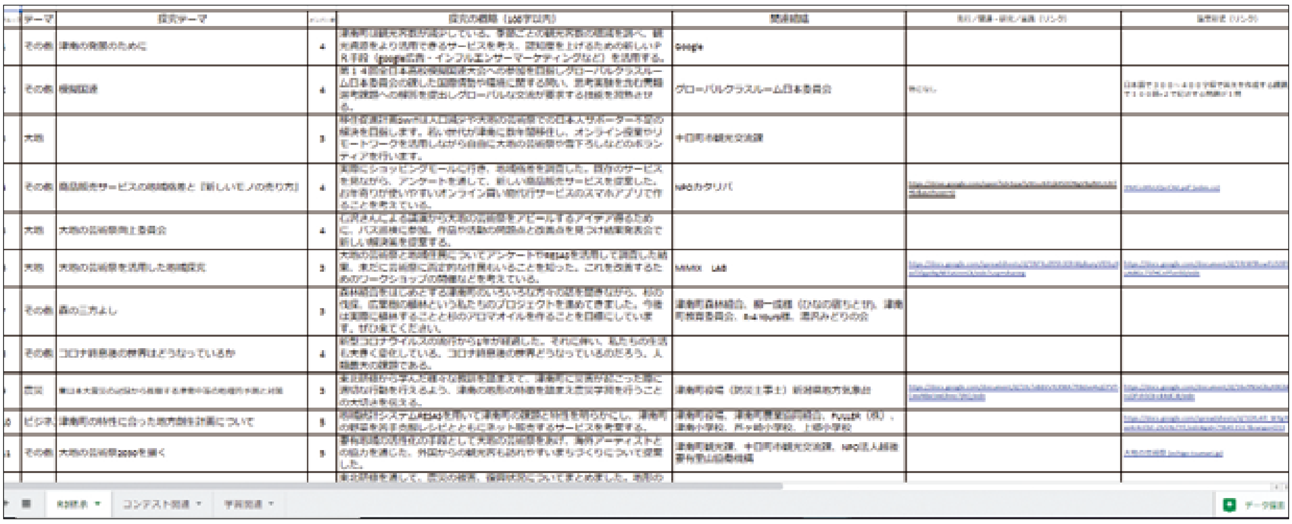
〈Step3 の例〉



諸外国と英語を使用した交流を通して例えば「ジェンダー」など共通の探究テーマを抱く場合があります。Google Forms などを活用してデータ収集し、分析を相互考察すると学際的探究につながります。右図は身の回りのリスクについてのアンケートから有意差が生じた項目について、なぜそのような結果になったのか、検討することができました。英語を活用した探究が進むと課題設定がグローカルになり、より SDGs の達成に意義を見出しやすくなります。

〈その他〉

コロナ禍だからと交流をあきらめる必要はありません。こういう時のためにも Google Classroom など学校全体で探究活動を共有するシステムを作っておきます。スプレッドシートを編集設定し、どの学年の生徒も見たり書き込んだりできるようにします（下図参照）。下級生は上級生の取り組みを見て、数年後の自分を描いたり今の自分の生活に活かしたりできるので効果はとても大きいです。編集履歴から誰がどう書いたり消したりしたのか確認できるので安心です。



⑧自身の生き方・あり方を考える振り返りは？

	Step1［知る］	Step2［広げる］	Step3［変える］
⑧振り返り	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート

キャリアパスポートに１年間を振り返り、言語化して記録を残します。１年後、過去の自分を振り返ることで Step1 から Step3、それぞれの段階で深い振り返りが展開できます。

〈Step1 の例〉

Step1 では、下記の項目で振り返りを行いましたが、これをキャリアパスポートと連動して行うと中高の探究ポートフォリオができます。

（1）オンライン新潟巡検× SDGs インタビュー、レポート作成やプレゼン大会を終えて考えたこと、学んだこと、自分の変化、気づき、感想など。（仲間のプレゼンを聴いて学んだこと等）

（2）総合的な学習の時間での一年間の学びを経て、自分自身の変化。（興味･関心、考え方、学び方、気づき、生活、行動、など）

（3）総合的な学習の時間での一年間の学びを、これからの生活や、学習、今後の生き方（進路選択・職業選択）にどのように活かすか。

（4）１年間の学びを活かして、今後やってみたいこと。（職場体験、修学旅行、地域貢献活動に向けて）

〈Step2 の例〉

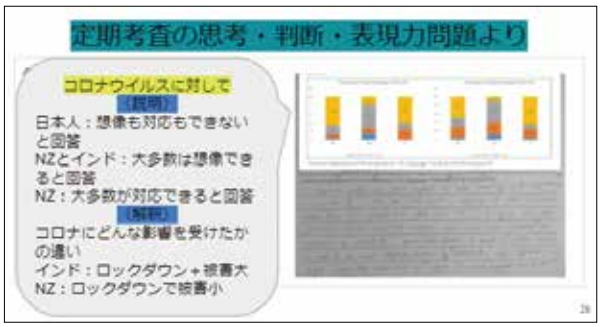
職業調べ、職場体験、国際理解を「ジモト」×「セカイ」というひとつのテーマで繋ぐことにより、それぞれの活動が独立することなく、相互に影響しあう仕組みが構築できます。特に SDGs という視点をもって地元の企業と関係していくことは、将来的な地域開発にも発展するため生徒のキャリア形成を促すという点においては、有効な活動だと考えます。これをキャリアパスポートと連動して行うと中高の探究ポートフォリオができます。

〈Step3 の例〉

・テーマ設定で作成した地域版 ESD 目標を用いて、ユネスコが掲げる８つのキーコンピテンシーのうち、どの思考態度やスキルが、どの活動を通して身についたのか振り返ります。また、ESD 目標を地域の実情や探究活動に合わせて更新し、下級生に引き継ぎます。ESD は英語で作成されているので、諸外国との相互評価にも活用できます。キャリア形成を系統立ててポートフォリオとしてまとめている国や地域があります。それらの国と日本のキャリアパスポートを比較しながら 21 世紀型スキルについて考察させると有意義な振り返りになります。

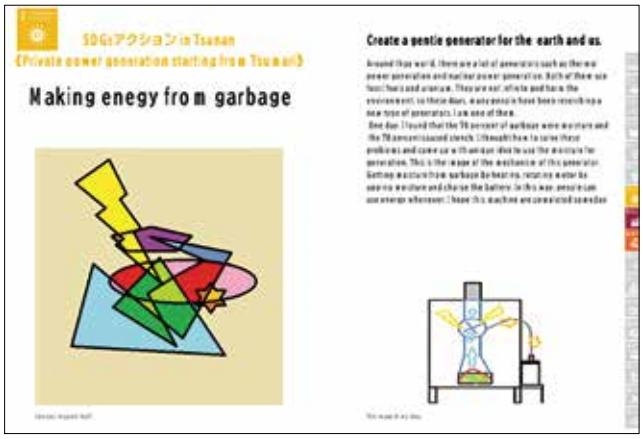
・定期考査に探究活動を出題することも可能です。共通テストでは情報処理力がますます求められるようになり、統計的解釈力も磨く必要が高まりました。探究活動を外部に発信するためには客観的解釈や考察力が必須で、そのためには探究活動をそれだけで終わらせるのではなく授業と関連付けることが理想です。右図は英語表現に出題した図表の読み取りに関する問題です。防災に関わる探究活動を展開したグループ

から依頼され、授業で諸外国と防災について議論しました。その中で行ったアンケートからコロナ禍の対応やその受け止め方が諸国で有意に異なる結果が出ました。グラフを説明し、どう解釈できるかについて 80 語程度で説明する問題で、説明と解釈 6 点、語彙と文法 4 点の配点です。定期考査も視野に入れて探究活動を展開すると、探究活動の主体性が活かされ、結果的に授業も主体的に取り組むようになります。定期考査にどのように探究活動を出題できるか、検討の価値は高いです。

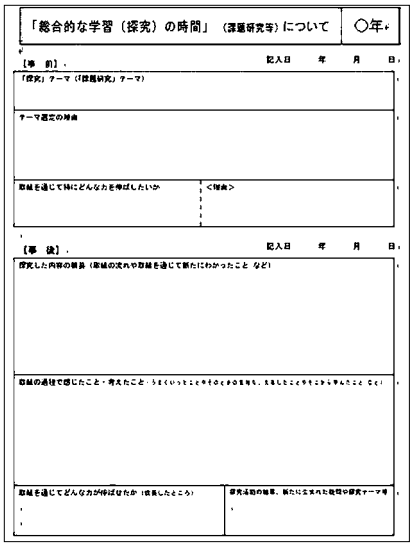


〈その他の例〉

・SDGs アイデアブック：他校と協力して地域版 SDGs アイデアブックを作成するとより達成感が高まります。自校独自のブックも Think the Earth 提供の下記リンクからアクセスして作成できます。
http://www.thinktheearth.net/sdgs/members/



・〇〇版天声人語（607 文字）：天声人語に倣って限られた字数で物語風に探究活動を振り返ります。地域にまつわる写真と関連する SDGs を選び、物語風にまとめると生徒の本音がポロっとこぼれ、自己の在り方や生き方に触れるよいきっかけとなります。

・キャリアパスポート（新潟県書式より）

様々な様式の探究論文やポスターが各種コンテスト等で提示されている。右図のキャリアパスポートは一例で、どれだけ大規模なプロジェクトに発展したとしても、この 1 枚に 1 年間の探究活動をまとめることは、児童生徒が自分のあり方や生き方を振り返るよい機会になります。